新田配水池送水管布設工事現場見学会（北方小学校）

■子供たちに水道事業をＰＲ

普段は土の中にある水道管がどのようになっているのか、実際に水道管布設工事の現場を小学生に見学してもらい、水道への理解を深めてもらうことを目的にした見学会が 11 月 22 日に登米市立北方小学校の４年生を対象に行われました。

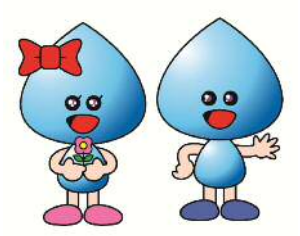
現場は東日本大震災時に長期間断水が発生した迫川西部地区への安定給水を目的に、今年完成した「新田配水池」と既存の北方配水池を結ぶ「送水管」の布設工事現場です。児童たちは普段なかなか見ることができない作業を真剣に見学していました。今回はその見学会の様子をお伝えします。

◆そもそも「水道」や「水道管」って何？

始めに工事現場事務所で開会行事が行われ、水道事業所の職員から今回の工事概要の説明や、今回協力して頂いた㈱クボタの方から、パネルや管のミニチュアモデルを使って水道全体のお話や水道管についての説明がなされました。今回の工事で使用されている水道管は「ダクタイル鋳鉄管」と呼ばれるもので、地震が起きても継ぎ手部分が可動して抜けない機能を持った「耐震管」です。児童たちは実際に管に触れてその手触りや継ぎ手部分の構造を確認しました。

水道の成り立ちや現在、未来、そして耐震管についてのお話を聞きました。

工事に使われる実際の水道管。長さは6m、重さは 340ｋｇあります。



◆実際に工事の現場を見学！

児童たちは工事現場事務所で工事概要や水道管の説明を聞いた後、実際に工事を行っている現場に移動し、協力して頂いた工事業者㈱菅慶の現場代理人さんの説明を聞きながら、水道管がまさに布設される様子を見学しました。児童たちは説明をよく聞き、業者の方々が手際よく新しい水道管をクレーンで吊り上げて掘削箇所に収め、管同士を接合する様子を、目を輝かせながらとても真剣に見学していました。

管が吊り上げられ、地中に収められる様子を間近で見守る児童たち。

管同士が接合される瞬間の音を聴き逃すまいと耳を澄ませました。

◆見学会を終えて

現場見学終了後、その場で閉会行事が行われ、児童たちからは「工事をしていて怪我をすることはないのか」「工事では地面をどれくらいの深さまで掘るのか」等の質問や、「重機の扱いが難しそうだった。大人になったらこのような仕事もいいなと思った」との感想が述べられました。最後に水道事業所の職員から閉会のあいさつがなされ、見学会は終了しました。今回の見学会の期に、少しでも水道に興味を持ってもらえたらと思います。

閉会行事では児童たちが今回の見学会で感じたことを質問しました。

最後に児童代表が今回の見学会の感想を話しました。